

町長日誌 No.162



町長日誌の第 162 号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

4月14日(金) AM9:00

今日は熊本地震が発生してから1年になります。午後9時26分ごろM6.5の直下型地震が発生。夜中のため詳細が判りづらく、状況が見えだした翌午前1時25分頃M7.3のより大きい2度目の地震が発生し、被害はより甚大なものになったのでした。この地震災害で注目されたことは「本震が余震であった！」と言う気象庁の発表と「車中泊避難」でありました。個人的には、知り合いが震災中心地となった益城町に住んでいたものですから大変心配しましたが、幸いにもほとんど被害はなく一安心したのを思い出します。上空から被災地を見ると活断層の真上に被害が集中しており、今朝のテレビでは同じ場所でも表層地質が異なると倍ほど震度に差が出るということでした。決して批判をするわけではありませんが、政府の地震調査研究推進本部、地震予知連絡会など専門家と称する機関から「〇〇年以内に地震が発生する確率は70%」と言う予測が出されますが、本当に地震予知は出来るのでしょうか？以前、海外の研究者が「予知は不可能である！」と言う発言を報道番組で聞いた覚えがありました。最も危険と言われる東海地域や東京などはずっと昔から危ない危ないと言われながら未だに発生していないのは、ただ運が良いからだけなのでしょう。かなみに、私たちの住むオホーツクは今の研究では活断層の無い、国内でも最も安全な地域です。ここに首都機能の一部でも移転すればJRの問題も片付くのではと思うのは私だけでしょうか？いずれにしても、東日本大震災の避難者も未だに大勢いらっしやいます。さらに、熊本地震の避難生活者は4万7千人と西紋5市町村の人口より多い現実を私たちは忘れてはならないと思います。

3月17日(金)

定例会が29年度予算案と関連議案を全て認めて頂き終了しました。29年度は一般会計予算が50億6950万円と昨年度より8億6千万円ほど増えています。これは新興部中学校校舎改築事業の予算が増えたことが主な要

例年4月は異動の時期で、管内の官公庁の新任の皆さんがご挨拶に来られます。私も来週から北海道町村会の総会をはじめとする各団体の総会が続き、道庁にもご挨拶に伺う予定です。各総会が終われば、5月後半からもう早来年度予算の要望活動が始まります。私も町長4期目の後半となりますので、一層気を引き締め町政に当たりたいと考えています。春の交通安全運動に続き山火事注意の期間が始まりますので「火の用心」にご協力をお願いします。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など（使い古しのもので構いません）に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。

因で、30年1月には新校舎が完成し4月から統合中学校として授業が始まります。その後旧校舎を解体しグラウンドの整備などを30年度に行い完了する計画です。

4月1日(土)

漁組市場内においてホタテ漁の安全操業を祈る「八尺おろし」と言う神事が行われました。すでに3月20日から毛ガニ漁は始まっていますが、漁業の大黒柱であるホタテ漁が始まると春が来たと言う気になります。漁と言っても暫くの間は今年稚貝を撒く場所の漁場造成で昨年取り残していた貝を収穫するものです。稚貝撒きがこれから始まりその後本格的なホタテ漁が秋まで続きます。今年の目標は8千トンで、今年で低気圧被害の影響がなくなる予定です。尚、今年は久しぶりに「町民向けホタテ貝の無料配布」が行われることになりました。沙留漁業協同組合ホタテ貝漁業生産部会の皆様ありがとうございます。

4月13日(木)

北オホーツク農協総会が中央公民館で開催されました。平成24年に興部・雄武の両組合が合併して5回目の総会です。28年度は過去最高の124億円の販売額を達成したこともあり両町に500万円ずつの寄付がありました。酪農畜産業はこれまで40年ほどに亘り生産調整や生産乳価の引き下げ、石油・生産資材の高騰、口蹄疫対策など苦労の連続で、離農する仲間の土地を抱えその借金を払うための増頭、施設整備、機械の大型化を繰り返しながら乗り切ってきました。6年前の東日本、昨年の熊本地震は考えてみると酪農専業地帯で発生していて多くの農家が廃業に追い込まれました。また、高齢化と共に本州方面の生乳生産量は減少し品薄状態が続いています。この事が乳価の引き上げにつながり、後継メス牛を多く生産する小規模酪農家が高齢で廃業することから乳牛の価格高騰に繋がっているのです。

